

令和7年度

佐賀県立九州陶磁文化館協議会

日時 令和7年7月30日(水)13時30分～

会場 佐賀県立九州陶磁文化館 会議室(研修室1)



概要・各種データ



九州陶磁文化館の概要



1 設立の趣旨

陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存、展示、調査研究、教育普及を図り、併せて九州圏域の陶磁文化の振興に寄与する。

2 施設の概要

- (1)開館日 昭和55年(1980年)11月1日
- (2)工事費 1,745,100千円
- (3)規模 (構造) 鉄筋コンクリート造 (地上2階、一部3階)
(敷地面積) 43,619.59㎡ (建築面積) 3,831.93㎡
(延床面積) 6,526.54㎡

九州陶磁文化館の概要



3 九州陶磁文化館の基本方針

1 資料の整備充実

- (1) 資料の購入や寄贈資料の受入れによる収集の促進
- (2) 文献図書等の収集整備
- (3) 陶磁片等陶磁関係資料の収集整備

2 展示活動

- (1) 常設展の整備充実
- (2) 企画展の開催
- (3) 次年度以降企画展の計画・調査

3 調査研究・教育普及活動

- (1) 資料・文献の調査収集に努め、交流等を通じて研究の進展を図る。
- (2) 展示案内や陶芸実習室の提供等により、陶芸文化に対する理解を深める。

九州陶磁文化館の概要



4 館蔵資料

15,551 件 29,272 点

令和6年度末現在
(開館当初は、49件 82点)

重要文化財 2件 登録有形文化財 1件(柴田夫妻コレクション) 佐賀県重要文化財 11件



染付鷺文三足大皿

肥前 鍋島藩窯
1690~1710年代
重要文化財



染付山水文輪花大皿

肥前 有田
1640~1650年代
重要文化財



色絵花鳥文六角壺

肥前 有田 南川原山
1670~1690年代
佐賀県重要文化財



鉄絵蒲公英文茶碗

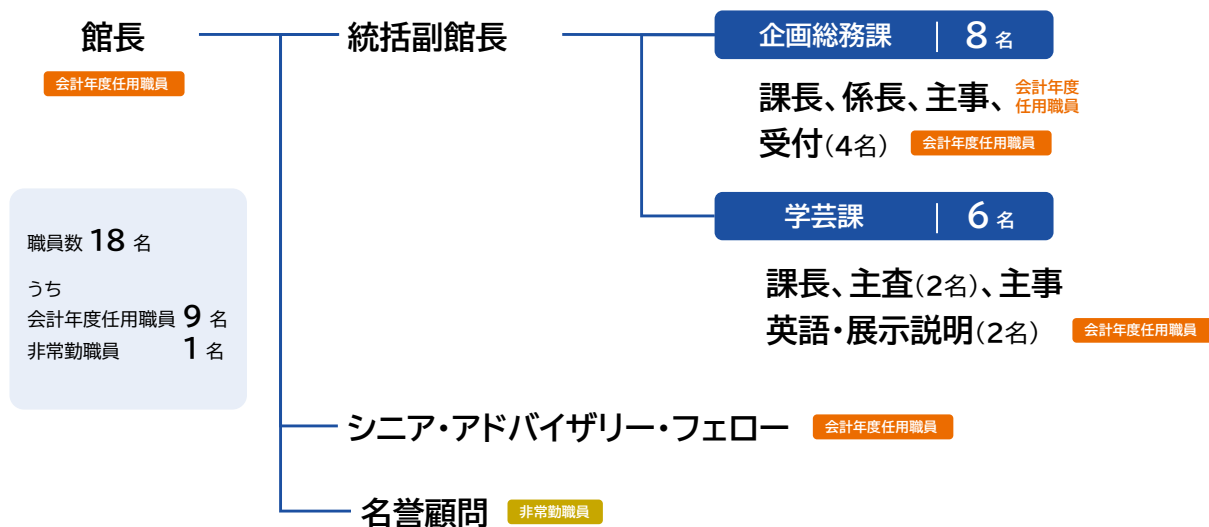
肥前
1590~1610年代
佐賀県重要文化財

九州陶磁文化館の概要

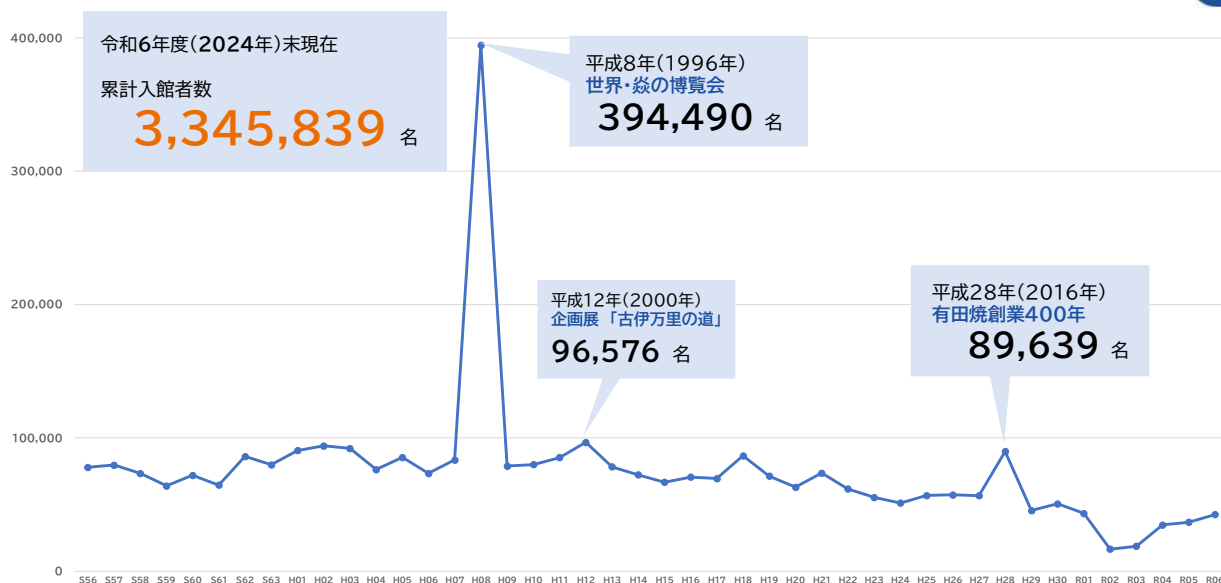


5 組織・体制

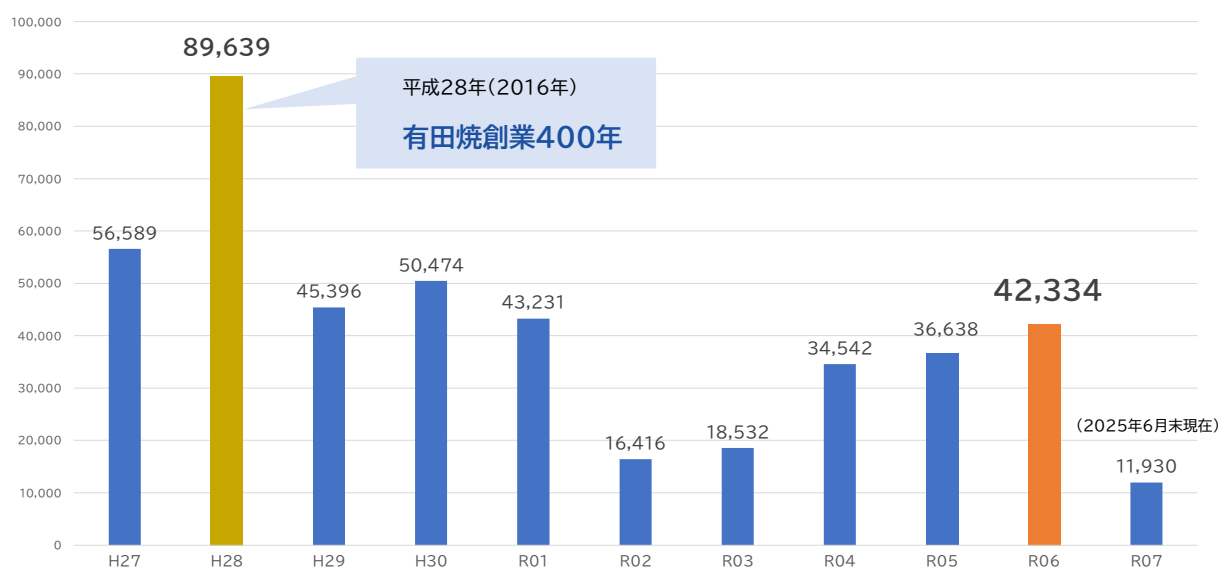
令和7年4月1日現在



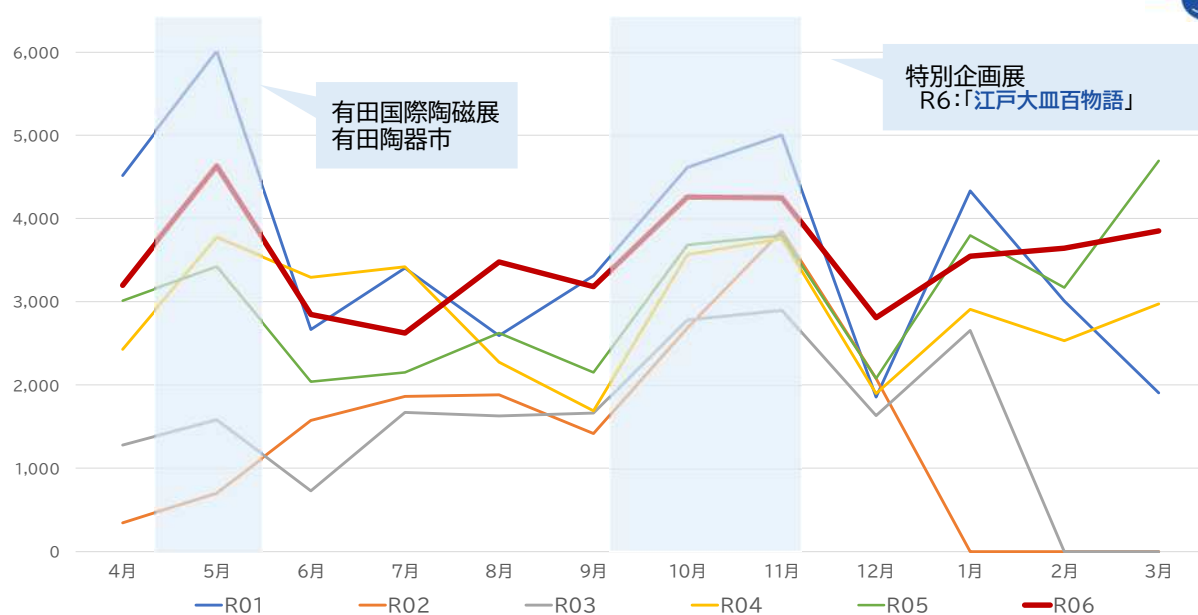
入館者の推移（昭和55年度～令和6年度）



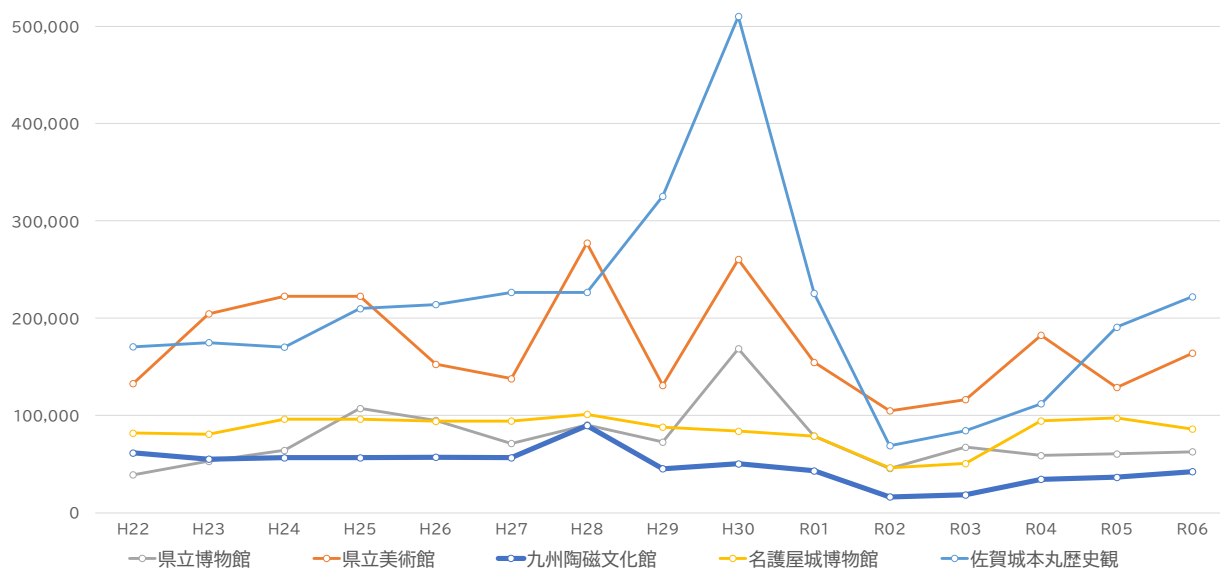
入館者の推移（直近10年）



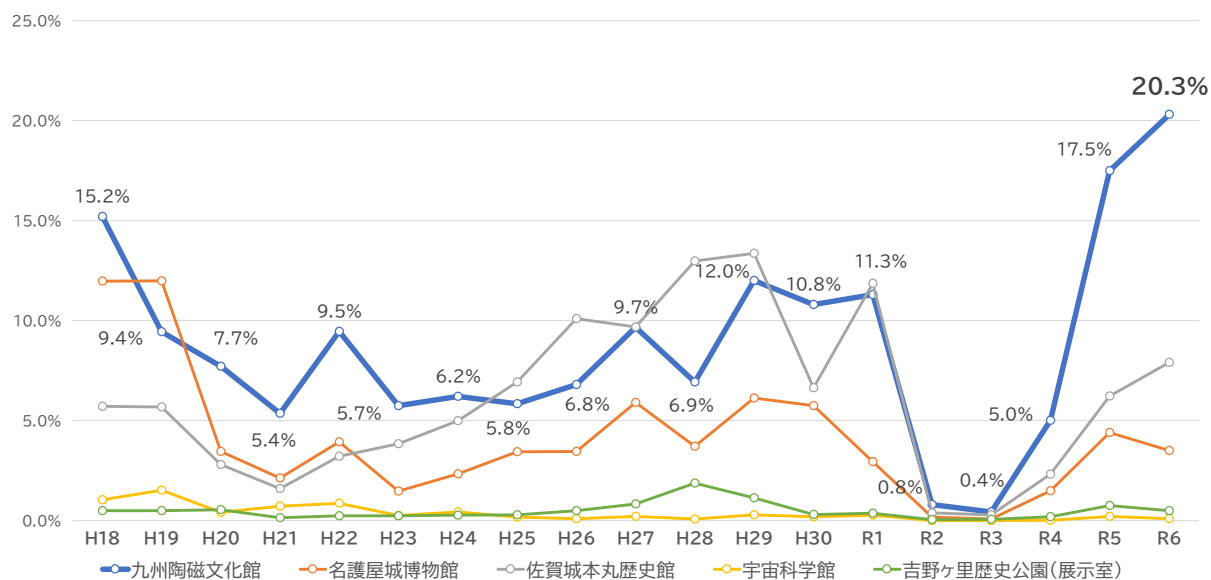
入館者の状況（月別：令和元年度～令和6年度）



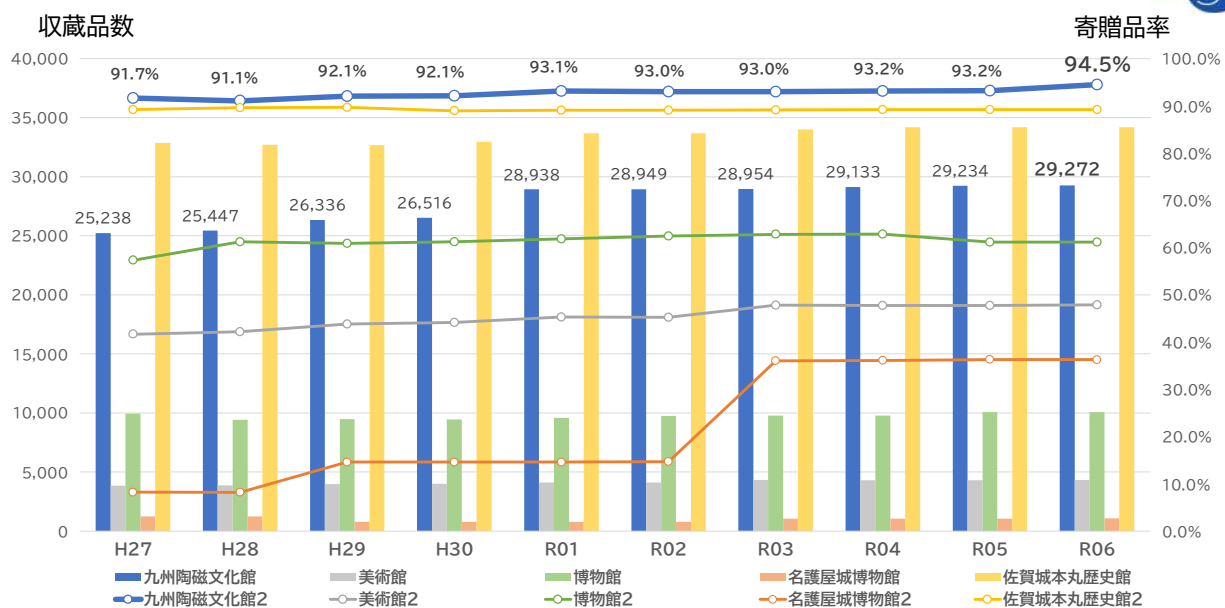
入館者の比較（博物館施設別）



入館者外国人率の比較（施設別）



収蔵品の比較（博物館施設別）

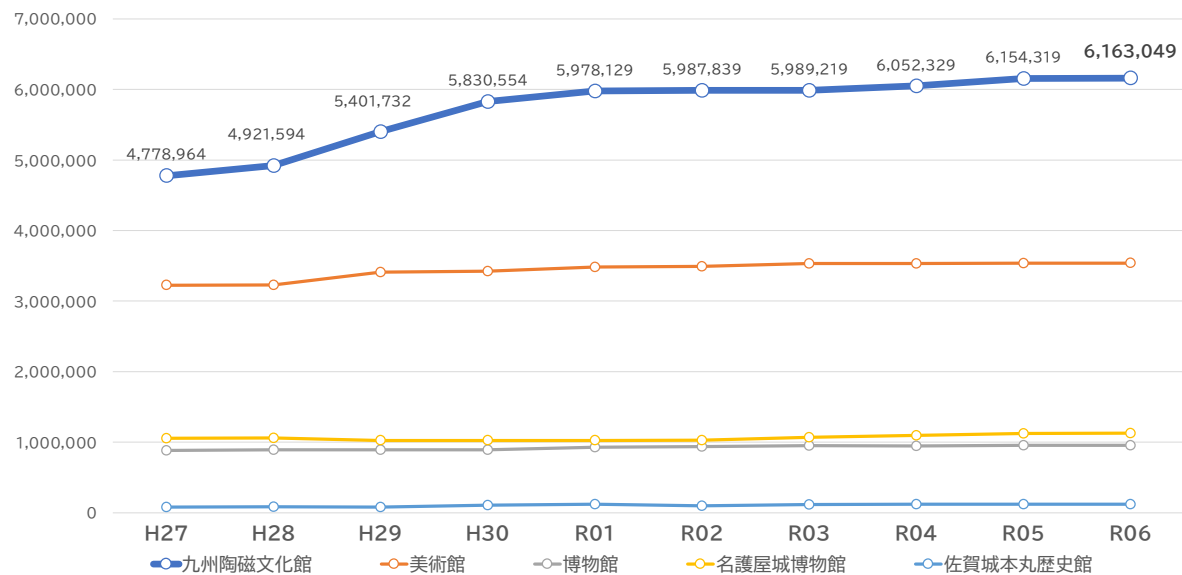


収蔵品の比較（博物館施設別）

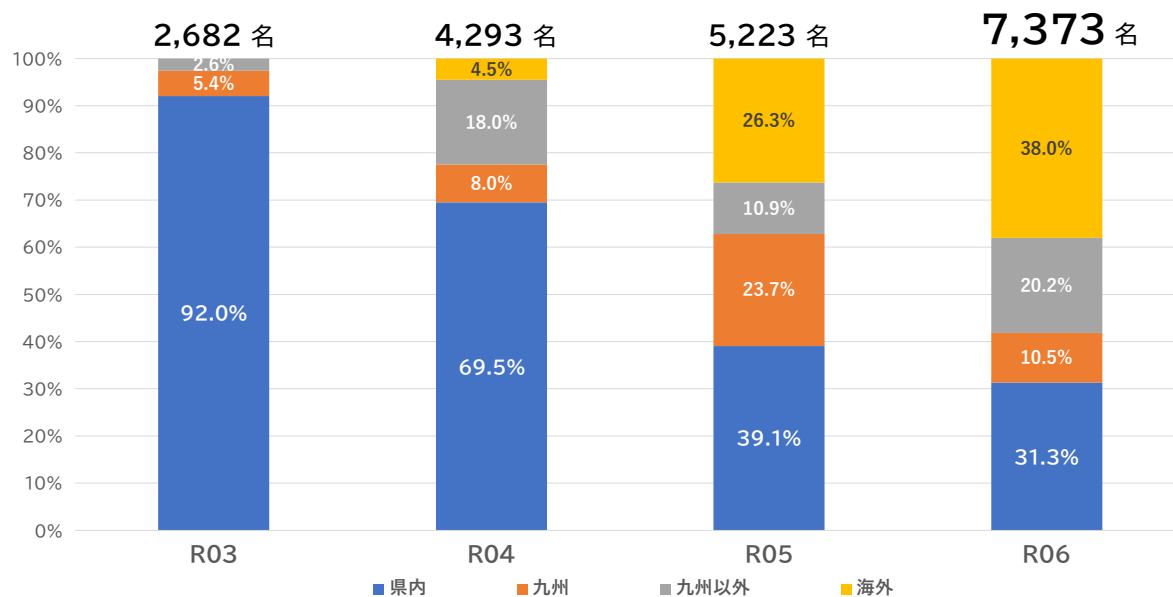
CONFIDENTIAL



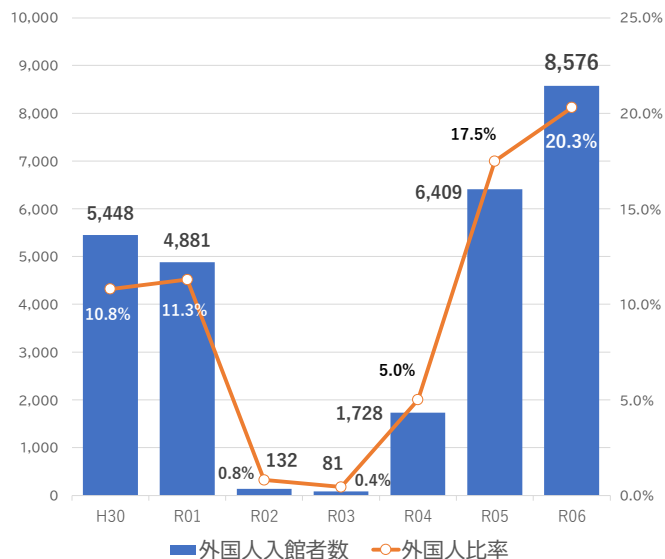
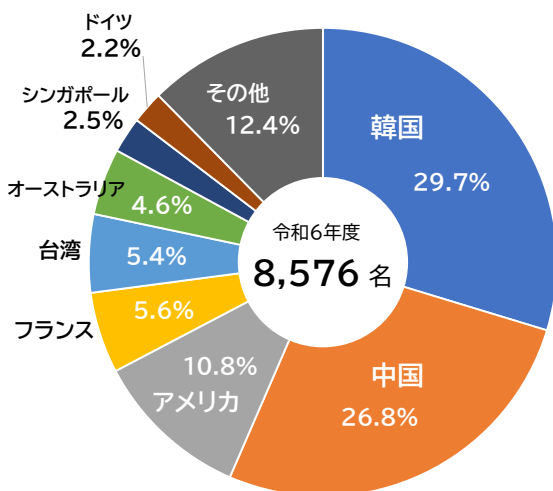
収蔵品評価額(千円)



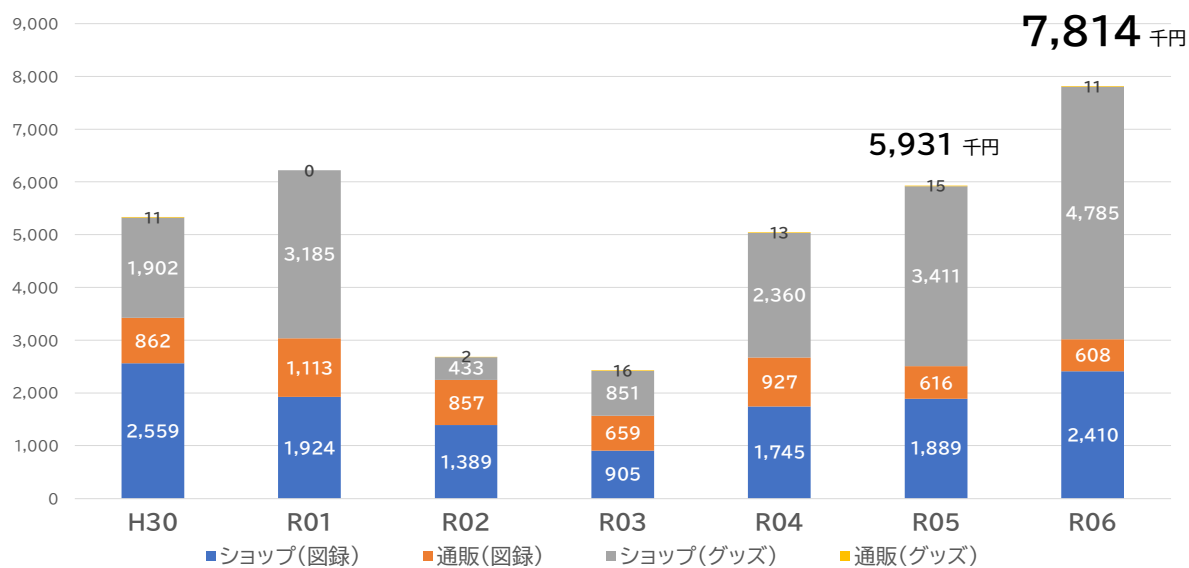
団体入館者の状況（20名以上）



外国人入館者の状況



図録・グッズ販売額の推移

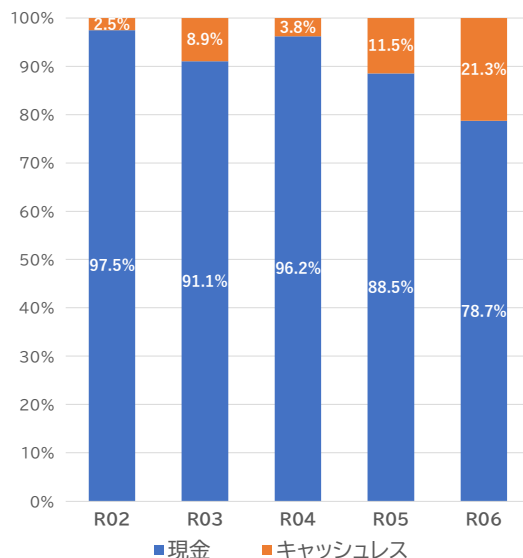


図録・グッズ販売の状況



図録販売ベスト5 (R6)

	品名	販売数
1	瀬川コレクション(特別展図録)	286
2	有田焼の歴史(和)	239
3	有田焼の歴史(英)	140
4	赤戯幸コレクション(寄贈記念展図録)	115
5	古伊万里の見方(1)	80



グッズ販売ベスト5 (R6)

	品名	販売数
1	絵はがき	1185
2	有田焼マグネット(桜文)	730
3	クリアファイル(瀬川コレクション)	630
4	クリアファイル(柿右衛門様式)	556
5	有田焼マグネット(鷺文)	526

トピックス



オランダの考古学者、Jan M.Baart氏(ヤン・M・バート氏)から、17世紀の貴重なデルフト焼8点寄贈

平成12年に開催した日蘭交流400周年記念 佐賀県立九州陶磁文化館開館20周年記念『古伊万里の道』への出品および図録寄稿をしていただいたから、学術的な交流を続けてきたオランダの考古学者、Jan M.Baart氏(ヤン・M・バート氏)から、17世紀の貴重なデルフト焼8点の寄贈申出があり、令和7年4月7日に九州陶磁文化館を訪問。

(ヤン・M・バート氏のプロフィール)

30年以上にわたり、考古学、美術史、文学等の資料を用いて、考古学上の遺物と遺構の年代学、類型学、経済的および社会的背景について研究を行ってきた。アムステルダム都市考古学者として、住宅、要塞、教会、礼拝堂、修道院などの公共建築物や宗教建築物の多数の発掘調査を通じて、多種多様な遺物を調査した。マジョリカ焼に関する国際プロジェクト、ファイアンス焼の研究など、様々な研究所や博物館と協力して、様々な分野の物質文化を歴史的資料として活用した。佐賀県立九州陶磁文化館に協力し、『古伊万里の道』展への出品と図録『古伊万里の道』に寄稿した。オランダでは数多くの展覧会に携わり、アムステルダム歴史博物館やロッテルダムのボイマンス・ファン・バーニンゲン美術館、レーワルデンのプリンセスホフ国立陶磁器博物館などの他の博物館のカatalogにも寄稿した。Historical Archaeology(米国)およびPost-Medieval Archaeology(英国)の編集委員会のメンバーであり、著書『Opgravingen in Amsterdam (アムステルダムの発掘)』で、歴史学及び考古学の分野で最も優れた出版物としてパブリウス賞を受賞した。



トピックス



オランダの「デルフト焼」佐賀県有田町の九州陶磁文化館に血を寄贈 有田焼の影響受け発展

2025年4月9日 西日本新聞朝刊

中国製磁器や有田焼の影響を受け、17～18世紀のオランダで発展した陶器「デルフト焼」の皿8点を7日、佐賀県立九州陶磁文化館（有田町戸約乙）に寄贈された。同館と学術交流を続けるオランダ人考古学者のヤン・M・パート氏が自身のコレクションから提供。パート氏は「多くの人が日蘭交流の歴史を知り、研究がさらに深まることを期待したい」と話した。

デルフト焼は、粘土から成形した素焼きの器に白い釉薬（ゆうやく）をかけて青色で描画し、焼成する陶器。見た目は有田焼の染付（そめつけ）に似た仕上がりになるが、かけた部分からは陶器の土色がのぞく。

明代の中国で作られた景德鎮などが重宝された当時のヨーロッパには陶磁器を作る技術はなかった。デルフト焼は陶器製造の技術を高めた上で中国製や、中国内の動乱に伴って日本から輸出されるようになった有田製磁器の意匠などを模倣した。

寄贈されたのは17世紀に作られた直径21・3～40・5センチの皿8点で、そのうち5点は伝統的な「芙蓉手（ふようで）」のデザインで描かれている。今後は類似する有田焼や中国の陶磁器と並べて常設展で紹介される予定。

同館はこれまでもデルフト焼3点を所蔵していたが、瓶や三角皿など小品が多かった。鈴田由紀夫館長は「これだけ立派なコレクションを寄贈してもらえて本当にありがたい。東洋のコピーから始まったデザインだが、花瓶などにはヨーロッパ独自のセンスも垣間見られ、非常に興味深い」と述べた。

（糸山信）



オランダ古陶磁「研究に役立てて」 考古学者・パートさん、九州陶磁文化館にデルフト焼8点を寄贈

2025年4月11日 佐賀新聞朝刊

古陶磁を収集しているオランダの考古学者が、有田とオランダの交流のきっかけになったとされる17世紀のデルフト焼の皿8点を、有田町の県立九州陶磁文化館に寄贈した。7日に作品と共に来館し、「日蘭の交流の歴史に関する研究を深め、友情を育むのに役立ててほしい」と思いを伝えた。

贈り主のヤン・M・パートさん（55）は欧州の都市の遺構や遺物を研究している。2000年、九州陶磁文化館が日蘭交流400周年の企画展を開いた際、陶片を出品するなどして協力。その後も関係が続き、若い頃から趣味で集めていた古陶磁の寄贈を申し出た。

17世紀のオランダ・デルフトでは、中国磁器を手本にした焼き物が数多く作られた。中国の王朝交代に伴う政治不安で輸入が困難になったことが背景にあり、同じように中国磁器を模倣していた有田焼を輸入して参考にした。

寄贈を受けた皿8点の大きさでは直径21・3センチ～同40・5センチ。染付花鳥文大皿は同館にもほぼ同じ大きさで絵柄の有田焼がある。同館が所蔵する同時代のデルフト焼は数点しかなく、鈴田由紀夫館長は「焼き物を通じた中頃、有田、欧州の交流の研究に役立つものばかり。大切なコレクションを寄贈していただきうれしく思う」と感謝した。

同館は寄贈品の一部をできるだけ早く公開する予定。（青木宏文）



県立九州陶磁文化館にデルフト焼を寄贈したヤン・M・パートさん（左）と鈴田由紀夫館長＝有田町

トピックス



当館所蔵の「鉄絵蒲公英文茶碗」が佐賀県重要文化財に指定

鉄絵蒲公英文茶碗 令和7年(2025)5月2日指定

生産地:肥前
製作年代:1590～1610年代

本作品は、17世紀初期頃に肥前で作られた、蒲公英（たんぽぽ）を描く唐津焼の沓茶碗ある。口縁を内向きにすぼめながら轆轤で円形に引いた後、楕円形に歪ませている。一般的な沓茶碗に比べ歪みの少ない形状は、沓茶碗の中でも比較的初期に作られた形状と考えられる。高台は円形に低く削り出して中心を丸く削り込んだ後、高台の外側と腰部に直線的なヘラ彫りを施している。絵唐津には珍しい蒲公英が簡素な表現ながらよく特徴を捉えて描かれ、口縁にたっぷり塗られた鉄顔料の流れは趣のある景色となっている。

類品は、絵唐津を焼いた窯のなかでも早い時期に操業したと考えられている伊万里市内の焼山上窯跡の陶片にみられ、歪みや高台作り、ヘラ削りに相通じる特色が認められる。

絵唐津のなかでも、類例の知られていない蒲公英の意匠を中心とする優品であることに加え、沓茶碗の中でも初期と考えられる形状であり、大名外交に茶陶が用いられるなかで重用された唐津焼の歴史背景を雄弁に物語っていることから、きわめて重要な作例である。



トピックス



オランダ・デルフトのプリンセンホフ博物館と意向書(LOI)締結

プリンセンホフ博物館のリニューアル計画を契機として、令和6年12月にプリンセンホフ博物館を館長が訪問し、プリンセンホフ博物館所蔵の有田焼の調査や視察、意見交換などを行いました。

さらに、大阪・関西万博会場において、諸富家具や有田焼とダッチデザインの融合によるコラボ制作品の展示や、プリンセンホフ博物館と九州陶磁文化館の学芸員などによるトークショーを実施しました。

このような関係をさらに発展させるために、プリンセンホフ博物館と九州陶磁文化館は、陶磁器を通じて、オランダと日本の文化交流の歴史を共同研究することを目的とし、また、この共同研究の成果として、2029年春にプリンセンホフ博物館において、九州陶磁文化館のコレクションによる企画展を開催することを目指す意思を表明するために、意向書(Letter of Intent)を交わしました。



トピックス



九陶とオランダの博物館、共同研究

日蘭文化交流テーマに意向書

佐賀県立九州陶磁文化館とオランダのプリンセンホフ博物館が、日蘭文化交流をテーマにした共同研究の意向書(LOI)を締結した。両館は、17世紀以降、2つの町が焼き物を通じた歴史的なつながりがあることを背景に、このほど文化交流を進めていくことを確認する文書を交わした。

佐賀県立九州陶磁文化館は、有田焼の産地として知られる。一方、オランダのプリンセンホフ博物館は、17世紀以降、2つの町が焼き物を通じた歴史的なつながりがあることを背景に、このほど文化交流を進めていくことを確認する文書を交わした。

共同研究の意向書は、両館の館長が署名した。意向書には、両館が、17世紀以降、2つの町が焼き物を通じた歴史的なつながりがあることを背景に、このほど文化交流を進めていくことを確認する文書を交わした。

共同研究の意向書は、両館の館長が署名した。意向書には、両館が、17世紀以降、2つの町が焼き物を通じた歴史的なつながりがあることを背景に、このほど文化交流を進めていくことを確認する文書を交わした。

佐賀県立九州陶磁文化館とオランダの博物館が共同研究へ (取材 佐賀)

有田町の佐賀県立九州陶磁文化館と陶磁文化を展示するオランダのプリンセンホフ博物館は、17世紀以降、2つの町が焼き物を通じた歴史的なつながりがあることを背景に、このほど文化交流を進めていくことを確認する文書を交わした。

有田町の佐賀県立九州陶磁文化館とオランダのプリンセンホフ博物館は、17世紀以降、2つの町が焼き物を通じた歴史的なつながりがあることを背景に、このほど文化交流を進めていくことを確認する文書を交わした。

共同研究によって、オランダのプリンセンホフ博物館で展示された有田焼の複製品が、佐賀県立九州陶磁文化館に展示されることになった。

共同研究によって、オランダのプリンセンホフ博物館で展示された有田焼の複製品が、佐賀県立九州陶磁文化館に展示されることになった。

令和6年度事業



1 資料の整備充実



館蔵資料 (令和6年3月末現在)

15,551 件 29,272 点

資料整備

寄贈資料

31 件 37 点

購入資料

1 件 1 点

購入資料 色絵甕割唐子文八角皿

【資料概要】

- 皿1枚(口径27.5cm)、精巧な柿右衛門様式のマイセンコピー
- 1730年頃 ドイツ マイセン窯
- 裏面にマイセンの銘(双剣マーク青の上絵)がある
- ドレスデン宮廷所蔵品(アウグスト強王コレクション)であったことを示すパレス番号 N:36Wが彫り込まれている、1770年の収蔵品目録に登録
- 同じ文様、形状の柿右衛門様式の製品が当館に所蔵されている(柴田夫妻コレクション)
- また、同様にイギリス チェルシー窯製品も当館に所蔵



2 展示活動



常設展は4つの展示室からなり、九州陶磁の歴史と特色が順を追って把握できるように構成

常設展	第1展示室	有田焼の歴史
	第2展示室	柴田夫妻コレクション
	第3展示室	九州の古陶磁
	第4展示室	現代の九州陶芸
	展示ホール	芸術院会員、人間国宝の作品等

第1展示室 「有田焼の歴史」



日本磁器の誕生	なぜ日本初の磁器が有田で生まれ、持続的に発展できたのか
技術の革新	新技術の導入と有田独自の技術改良で短期間に品質を向上
日本磁器の完成	日本的な磁器が確立した背景
海を渡る	世界でどのように受容され、影響を与えたか
暮らしを彩る	食をはじめ日本の生活文化に大きな影響を与えた有田焼
新時代の幕開け	再び世界に打って出た新たな時代の動き
今とこれから	現代の有田焼と未来への期待



第2展示室 「柴田夫妻コレクション」



柴田夫妻から寄贈された1万点を超える江戸時代の有田磁器の中から約**1,000**点を展示

令和6年度は柴田夫妻ゆかりの器や年代による変遷のコーナーを中心に展示替えを実施

コーナー

1. 柴田夫妻コレクション
2. 年代による変遷
3. 江戸時代の食膳
4. 種類
5. 成形・装飾
6. 手塩皿
7. 銘
8. 芙蓉手皿
9. 出土陶片との比較



コーナー3「江戸時代の食膳」



コーナー9「出土陶片との比較」

第3展示室 「九州の古陶磁」



唐津焼や初期伊万里、柿右衛門様式、鍋島藩窯などの名品と九州・沖縄の古陶磁を展示

101件**134**点を展示

佐賀県の唐津焼や鍋島焼をはじめ、長崎県の波佐見焼、三川内焼、福岡県の高取焼、上野焼、熊本県の八代焼、小代焼、鹿児島県の薩摩焼などを紹介

令和6年度は、天井工事のため
令和6年11月5日から令和7年3月25日まで閉室



第4展示室・展示ホール 「現代の九州陶芸」



第4展示室

創作活動が続けている九州の陶芸作家を選び、その代表作を一堂に紹介

九州5県の**90**名の作品を展示

令和6年度は、天井工事のため
令和6年11月5日から令和7年3月25日まで閉室



展示ホール

佐賀県を代表する日本芸術院会員や重要無形文化財保持者(人間国宝)の作品は展示ホールで紹介

日本芸術院会員
青木龍山氏、中里逢庵氏

重要無形文化財保持者
井上萬二氏、中島宏氏、14代酒井田柿右衛門氏、14代今泉今右衛門氏



展覧会（企画展・テーマ展など）



展示会名	区分	会期
第120回有田国際陶磁展	共催展	4/29～5/7
米寿特別記念「和紙染 江口勝美陶芸展」	後援展	5/14～5/26
寄贈記念展「赤戯幸コレクション」	主催展	6/1～7/15
第45回九州新工芸展	後援展	7/24～8/5
第20回伊万里・有田焼伝統工芸士会展	後援展	8/10～8/18
寄贈記念・特別企画展「瀬川竹生コレクション 江戸大皿百物語」	主催展	9/7～11/4
第56回有田工業高等学校卒業制作展	後援展	1/21～1/26
深川製磁 創業130年 百年工房に生きる技展	後援展	1/27～2/10
第35回九州陶磁器デザイナー協会展	後援展	2/11～2/16
第33回陶千坊展	後援展	2/18～2/24
第40回陶交会展	後援展	3/4～3/9

第120回有田国際陶磁展

共催展



陶磁器作品の公募展

『美術工芸品・オブジェ部門』、『産業陶磁器部門』（作品の一部）を展示

会期

令和6年4月29日(月・祝)～5月7日(月・祝)【9日間】

会場

第4～5展示室

展示作品数

74 件

入館者数

2,588 人



1位・文部科学大臣賞 奥川 真以子氏
【Maron Fleur 24-02】



2位・佐賀県知事賞 川崎 精一氏
【月下美人陰刻鉢】



3位・有田町長賞 丸田 巧氏
【WAVE 2024】

米寿特別記念「和紙染 江口勝美陶芸展」

後援展



佐賀県重要無形文化財保持者江口勝美氏の作陶70年の集大成。

日展初入選作から第60回日本伝統工芸展入選作までを展示。



主催

米寿特別記念「和紙染 江口勝美陶芸展」実行委員会

会期

令和6年5月14日(火)～5月26日(日)【12日間】

会場

第5展示室

展示作品数

45 点

入館者数

1,750 人



寄贈記念展「赤戯幸コレクション」

主催展



個人収集家から寄贈された初期伊万里、初期色絵、初期鍋島を中心に構成された上質な作品群を展示

会期	令和6年6月1日(土)～7月15日(月・祝)【39日間】
会場	第5展示室、展示ホール
展示作品数	43 件 47 点
入館者数	3,914 人



色絵椿繫文小皿



色絵菊七宝文変形皿



染付吹墨鶯文皿



色絵菊鳥文大皿

第45回九州新工芸展

後援展



九州新工芸家連盟会員や公募による陶芸、金工、漆芸、染色、木竹、皮革、硝子、七宝、人形、紙工芸など、多岐にわたり生活との接点が多岐に多い作品を展示

主催	九州新工芸家連盟
会期	令和6年7月24日(水)～8月4日(日)【11日間】
会場	第5展示室
展示作品数	34 点 (磁器4点・陶器8点・染色・12点・竹工5点・人形3点・紙工1点・硝子1点)
入館者数	1,395 人



「木の声」 荒木 久仁子
令和6年度 大賞

第20回 伊万里・有田伝統工芸士会展

後援展



伊万里・有田焼伝統工芸士の匠の技が光る作品を展示

伊万里・有田焼の姿と活動を県民に親しみやすく、また楽しく表現し、伊万里・有田焼のある暮らしに興味と再認識を呼び起こすとともに、新しい生活文化を広く提案

主催	伊万里・有田焼伝統工芸士会
会期	令和6年8月10日(土)～8月18日(日)【8日間】
会場	第5展示室
展示作品数	約 60 点
入館者数	1,391 人



寄贈記念・特別企画展「瀬川竹生コレクション 江戸大皿百物語」

主催展



稀代の大皿コレクター 故瀬川竹生氏から寄贈された大皿を展示

大皿には、歌麿や広重の浮世絵をはじめ、東海道五十三次、金太郎、浦島太郎、蟹気楼、名酒の樽、鯉の滝登りなど、当時を反映する様々なテーマが生き生きと描写

会期	令和6年9月7日(土)～11月4日(月・祝)【51日間】
会場	第3展示室、第4展示室、第5展示室
展示作品数	120 件 120 点
入館者数	8,053 人



染付龍虎文輪花大皿



染付十二支八掛文大皿



染付山姥金太郎文大皿



青磁染付登龍門文大皿



イベント

① 講演会「大皿の魅力を追って」

日時 令和6年9月7日(土)14時～
会場 九州陶磁文化館 講堂
講師 学習院大学教授 荒川正明氏



② 九州陶磁文化館やきものセミナー

1) 江戸後期の大皿ー流通と需要ー

日時 令和6年9月21日(土)13時30分～
会場 九州陶磁文化館 講堂

2) 有田大皿のみどころー裏側の世界ー

日時 令和6年10月19日(土)13時30分～
会場 九州陶磁文化館 講堂



第56回有田工業高等学校卒業制作展

後援展



有田工業高校生の卒業制作展

卒業学年(セラミック科、デザイン科、電気科、機械科、聴講生)の「課題研究」で取り組んだものを中心に、多種多様な分野に果敢に挑戦して制作した作品を展示

主催

佐賀県立有田工業高等学校

会期

令和7年1月21日(火)～1月26日(日)【6日間】

会場

第5展示室及び研修室1

展示作品数

約 **200** 点 (生徒数159人)

入館者数

1,984 人



深川製磁 創業130年 百年工房に生きる技展

後援展



有田焼窯元 深川製磁の創業130年を記念した展覧会。
明治期、創業者深川忠次のパリ万国博覧会をはじめとした世界への挑戦を、当時の明治意匠図(デザイン画)や古陶磁器を中心に展示。
また技と美感を継承した現代の職人たちによる130周年特別作品も出品。

主催 深川製磁株式会社

会期 令和7年2月4日(火)～2月9日(日)【6日間】

会場 第5展示室

展示作品数 約 300 点

入館者数 1,313 人



第35回九州陶磁器デザイナー協会展

後援展



九州陶磁器デザイナー協会(通称DAKT)の会員によるテーマに合わせた陶磁器作品

主催 九州陶磁器デザイナー協会

会期 令和7年2月11日(火・祝)～2月16日(日)【6日間】

会場 第5展示室

展示作品数 約 180 点

入館者数 748 人



第33回陶千坊展

後援展



子供のように純真・純粋な感性と心で焼き物を製作し、新しいことに果敢に挑戦する仲間として集い、自由でかつ達な運営により相乗的な技術的向上と発展を目指す陶芸展

主催	陶千坊
会期	令和7年2月18日(火)～2月24日(月・振)【7日間】
会場	第5展示室
展示作品数	約 300 点
入館者数	1,031 人



第40回陶交会展

後援展



有田焼の製造に携わる窯元の若者たちで構成された団体である陶交会に参加している13名により制作発表される作品と、佐賀大学有田キャンパスの学生の作品。

テーマは『memorial』。

主催	陶交会
会期	令和7年3月4日(火)～3月9日(日)【6日間】
会場	第5展示室
入館者数	812 人



3 調査研究・教育普及活動



調査研究活動

調査	資料調査、在外肥前時期調査(韓国)など8件		
調査協力・広報・研修	各種研修会、審議会など10件		
依頼資料調査	来館依頼調査	20 回	46 件 46 点
	写真等依頼調査	50 回	112 件 113 点
	計	70 回	158 件 159 点

3 調査研究・教育普及活動



教育普及活動

展示案内実施回数・人数

	実施回数	人数
4月	10	220
5月	18	415
6月	11	100
7月	13	223
8月	4	36
9月	9	223
10月	19	359
11月	23	405
12月	15	292
1月	4	63
2月	7	96
3月	14	240
計	147	2,674

団体観覧

	実施回数	人数
展示案内	147	2,674
自由観覧	109	4,699
学校行事観覧	41	1,675



3 調査研究・教育普及活動



やきものセミナー開催

日時	6月から 毎月第3土曜日 13:30～15:00
会場	講堂・研修室1・展示室等
受講料	無料
定員	各講座 約 30 名

開催日	タイトル・内容	講師	参加者数
6月15 日(土)	寄贈記念展「赤戯幸コレクション」関連講座 赤戯幸コレクションのみどころ	巖 由季子	39
7月20 日(土)	やきもの間違いさがし【初心者・子ども向け】	宮木 貴史	13
8月17 日(土)	小城の松香溪(松ヶ谷)焼	徳永 貞紹	20
9月21 日(土)	特別企画展 瀬川竹生コレクション「江戸大皿百物語」関連講座 魅惑の有田大皿	芳野 貴典	48
10月19 日(土)	特別企画展 瀬川竹生コレクション「江戸大皿百物語」関連講座 有田大皿のみどころー裏側の世界ー	宮木 貴史	34
11月16 日(土)	佐賀で発掘された朝鮮半島の陶磁器	徳永 貞紹	18
12月21 日(土)	描かれた陶磁器(浮世絵編)	藤原 友子	9
1月18 日(土)	描かれた陶磁器(西洋絵画編)	藤原 友子	9
2月15 日(土)	何が入っていたのかな?ー陶磁器製容器とその中身	巖 由季子	11
3月15 日(土)	有田焼の史料を読み直す(江戸前期編)	芳野 貴典	18

印刷物等の刊行



館報「セラミック九州」61号

発行日	令和7年(2025年)3月19日
規格	A4判、オールカラー、8ページ
内容	・令和6年度企画展の報告 寄贈記念展「赤戯幸コレクション」 ー初期伊万里・初期色絵・初期鍋島の精華ー 瀬川竹生コレクション寄贈記念・特別企画展 「江戸大皿百物語」ー躍動する青の世界ー ・令和7年度企画展のお知らせ 開館45周年記念 特別企画展 「初期伊万里ビッグバン」ー日本磁器始まりの全貌ー 新収蔵品展 ・調査ノート 銚止めによる陶磁器修理 肥前磁器文様の構図(1)有田大皿の表文様について ー事例1 染付牡丹蝶文大皿ー



印刷物等の刊行



紀要「佐賀県立九州陶磁文化館 研究紀要」第10号

発行日	令和7年(2025年)3月24日
規格	A4判、69ページ
内容	・論考 世界に輸出された肥前陶磁(大橋 康二) 佐賀県で出土したVOC(オランダ東インド会社)銘磁器の胎土組成分析による産地推定(田端 正明・徳永 貞紹) - 日本出土のVOCマーク入り肥前磁器皿の種類と分布 (徳永 貞紹) ・調査ノート 19世紀有田大皿の雷文考(宮木 貴史) ・資料紹介 因幡国高草郡竹生村近藤家文書―幕末期の有田焼製品納入・輸送に関わる資料(芳野 貴典)



イベント・行事など



笑顔deさいこうマルシェ in 九州陶磁文化館

期間	令和6年4月29日(月・祝)～5月5日(日・祝)【7日間】
会場	九州陶磁文化館 エントランスホール
内容	お菓子・雑貨・手芸品など個性あふれる5店舗が出店



イベント・行事など



夏休み子供向けイベント／今年の夏も九州陶磁文化館でものづくり体験！

期間	令和6年7月20日(土)～8月25日(日)		
内容	子ども連れの家族を対象のイベント開催		
	有田焼箸置き作り 型押し成型体験と素焼生地に色呉須で絵付け体験	陶片アート作り 有田焼の陶片を貼り付けてフォトフレームづくり体験	エコバッグ作り お相撲さんスタンプでエコバッグの飾り付け体験
	 	 	 
	有田焼ジオラマ作り 有田焼ミクロスと粘土を使ってジオラマ作り体験	マグカップ作り マグカップにらくやきマーカーで絵付け	ミニコンサート 佐賀交響楽団メンバーによる演奏会
	 	 	 

イベント・行事など



秋のイベント／秋の九州陶磁文化館まつり

期間	令和6年11月20日(水)～11月24日(日)		
内容	文化の秋のイベントとして、大人も楽しめるものづくり体験ワークショップなどを開催		
	鶴丸謹製！唐津焼陶片せんべい絵付け体験 唐津焼の湯飲みの色合いと手触りをリアルに再現した「唐津焼陶片せんべい」の絵付けを体験。	匠の技！伝統工芸士から学ぶ本格的な絵付け(染付)体験 伊万里・有田焼伝統工芸士会のメンバーから本格的な染付を学ぶワークショップ。	
	 	 	
	家族で楽しめる！マグカップ絵付け体験 マグカップにらくやきマーカーで絵付け	オリジナルエコバッグ作り お相撲さんスタンプでエコバッグの飾り付け体験	 

イベント・行事など



クリスマスイベント／KYUSHU CERAMIC MUSEUM CHISTMAS

期間	令和6年12月14日(土)、15日(日)、21日(土)、22日(日)		
内容	アドベントカレンダー作り クリスマス当日までをカウントダウンするカレンダーづくり   ハーブ演奏・体験 アイリッシュハーブ演奏会と参加者のハーブ体験  	松ぼっくりリツリー作り 松ぼっくりなど自然の素材を使ったミニクリスマスツリー作り   佐賀交響楽団メンバーによるミニコンサート 佐賀交響楽団メンバーによるアンサンブルコンサート  	

イベント・行事など



ひなまつりイベント／ひなまつり九陶フェス

期間	令和7年2月4日(火)～3月9日(日)		
内容	「ひなまつりぬりえ」展示 有田町内の保育園・認定こども園の園児のぬりえ展示  ひなまつり九陶フェス 九州陶磁文化館×ボヌールマルシェ  有田町内中学校吹奏楽部コンサート  世界最大の白磁びな七段飾りの展示 世界最大の磁器製座り白磁びな七段飾りを展示  かず先生のサイエンスショー 		

令和7年度事業



展覧会（企画展・テーマ展など）



展示会名	区分	会期
第121回有田国際陶磁展	共催展	4/29～5/7
溝上和政作品展	後援展	5/20～6/22
第46回九州新工芸展	後援展	7/2～7/13
第21回伊万里・有田焼伝統工芸士会展	後援展	8/9～8/17
第34回陶千坊展	後援展	8/26～8/31
開館45周年記念 特別企画展「初期伊万里ビッグバン」- 日本磁器始まりの全貌 -	主催展	10/4～12/7
第57回有田工業高等学校卒業制作展	後援展	1/20～1/25
新収蔵品展	主催展	1/28～2/26
第41回陶交会展	後援展	3/3～3/8

第121回有田国際陶磁展

共催展



陶磁器作品の公募展

『美術工芸品・オブジェ部門』、『産業陶磁器部門』(作品の一部)を展示

会期

令和7年4月29日(火・祝)～5月6日(火・祝)【8日間】

会場

第4～5展示室

展示作品数

81 件

入館者数

2,518 人



1位・文部科学大臣賞 浦郷 正一郎氏
【気まぐれなコンポジション】



2位・佐賀県知事賞 嶋田 敏生氏
【連作 嘆きの壁】



3位・有田町長賞 森山 寛二郎氏
【伸】

開館45周年記念 特別企画展「初期伊万里ビッグバン」- 日本磁器始まりの全貌 -

主催展



肥前の磁器生産の草創期に焦点をあて、現代を生きる私たちをも魅了する初期伊万里の優品と、草創期の技術開発の様子をうかがい知ることができる資料を通じて、これまでの研究成果をもとにその起源と発展の真相に迫る。

会期

令和7年10月4日(土)～12月7日(日)【56日間】

会場

第3展示室、第4展示室、第5展示室

展示作品数

180 件 (予定)



染付竹虎図大鉢



染付山水文大鉢



染付木菟形香合



青磁銹瑠璃釉人形香炉



染付吹墨山羊文皿

新収蔵品展

主催展



令和5年度、6年度に購入と寄贈により新たに収蔵品となった館蔵資料をお披露目

会期

令和8年1月28日(水)～2月26日(木)【28日間】

会場

第5展示室

展示作品数

30 件 55 点 (予定)



色絵司馬温公文八角皿



染付薦文木瓜形小皿



染付蓮葉鷺文変形皿 (佐賀古澤家寄贈)

やきもののセミナー開催



日時

6月から 毎月第3土曜日 13:30～15:00

会場

講堂・研修室1・展示室等

受講料

無料

定員

各講座 約 30 名

開催日	タイトル・内容	講師
6月21日(土)	古伊万里の輸出と陶磁器の東西交流	藤原 友子
7月19日(土)	[明治日本の産業革命遺産] 世界遺産登録10 周年 佐賀藩の近代化事業と陶磁器	徳永 貞紹
8月16日(土)	やきもの間違い探し【初心者・子ども向け】	宮木 貴史
9月20日(土)	やきもの漢詩紀行 - 肥前磁器の詩句文を楽しむ -	芳野 貴典
10月18日(土)	特別企画展「初期伊万里ビッグバン」関連講座 初期伊万里ビッグバンのみどころ -ビッグバンに至る磁器開発の様相-(仮)	宮木 貴史
11月15日(土)	特別企画展「初期伊万里ビッグバン」関連講座 初期伊万里ビッグバンのみどころ -多彩な装飾と文様の魅力-	巖 由季子
12月20日(土)	有田焼の史料を読み直す -江戸中期編-	芳野 貴典
1月17日(土)	佐賀で発掘された中国の陶磁器	徳永 貞紹
2月21日(土)	新収蔵品展関連講座 新収蔵の古伊万里、マイセン、鍋島について	藤原 友子
3月21日(土)	やきものに描かれた鳥	巖 由季子

イベント・行事



名称
期間
イベント

遊びと学びと体験と！

夏休み 子ども わくわく体験

九州陶磁文化館

2025. 7.19 (土) ~ 8.24 (日)

有田焼マグカップに絵付けをしよう！
参加料 1000円
毎日開催

文様スタンプでエコバッグをかざろう！
参加料 500円
毎日開催

有田焼文様のうちわをつくろう！
参加料 無料
毎日開催

やきもので写真立てをかざろう！
参加料 1000円 (先着 100名)
毎日開催

有田焼のはしおきをつくろう！
参加料 2000円
8/9 14:00-16:00
8/10 10:00-12:00
8/10 14:00-16:00
要予約
ホームページから申し込み

ミニコンサート
参加料 無料
佐賀交響楽団メンバーによる演奏会
7/27 14:00-15:00

やきものセミナー
参加料 無料
「やきもの間違いない屋」(初心者・子供向け)
8/16 13:30-15:00

やきものクイズにチャレンジしよう！
参加料 無料
クイズに正解するとオリジナル缶バッチがもらえる！

九州陶磁文化館 KYUSHU CERAMIC MUSEUM

〒844-8585 佐賀県西松浦郡有田町戸約乙 3100-1
TEL 0955-43-3681 E-mail kyuto@pref.saga.lg.jp

開館時間 9:00 - 17:00
九州陶磁文化館

Website Facebook Instagram X 佐賀県

秋の行楽シーズン、クリスマス、ひなまつりもイベントを検討

令和6年度 意見と対応



令和6年度 九州陶磁文化課協議会 主な意見と対応



意見	対応
有料化について 無料というのはあまりにも太っ腹ではないか。 外国人料金を設定するという考えはないか。 特別な展示解説には解説料を設定してみたらどうか。	博物館法では、公立博物館は原則として入館料を徴収してはならないと定められているが、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情がある場合は、必要な対価を徴収することが認められているため、一定規模の事業費を伴う特別企画展は有料としている。 オーバーツーリズム対策として海外では外国人料金の設定があるが、日本では京都の一部の寺社など限定的。国籍や人種による差別と受け取られるリスクがあるため、居住者(在住者)と旅行者(観光者)などの差を設ける方法が望ましいとされている。 清水寺などでは、外国人団体観光客向けのガイド付きプランが高額設定されるなどの事例もあるので、様々な事例を研究したい。
調査研究について 九州陶磁文化館の学芸員の名前がいろんなところに載っていると九州陶磁文化館の宣伝にもなる。ちゃんとしたものを書いていると、ちゃんとしたところだと思われる。いろんなところに学芸員の顔や名前を出して九州陶磁文化館の権威を高めてもらいたい。	自分個人のテーマについて論文を書く時間はなかなかとれないが、展覧会の準備や依頼資料調査などを通じて、走りながら専門性を深めていく。 文化観光など新しい活用と価値の創出に取り組むフェーズに入ったが、前提として調査研究、文化財の確実な保存と継承は基本的な使命。しっかりと取り組んでいきたい。

令和6年度 九州陶磁文化課協議会 主な意見と対応



意見	対応
展示解説について 多言語化も含めて、スマホで解説を受けられるなど展示解説を充実させてほしい。	専任スタッフを配置して、事前申込制で丁寧に対応している。海外からの来館者数が年々増加(令和6年度は20%超)している。日本語を母国語としない来館者に文化資源の価値と魅力を理解してもらうためには多言語化は必須。 解説等を掲示できるスペースには限りがあるため、QRコード等を活用し、来館者自身のスマホやタブレットによる展示解説の導入などデジタルメディアでの解説や紹介等、来館者にとって、より簡便で鑑賞体験の充実を図ることができないか検討を進める。
動線計画について 案内図や看板もあるが、降車場や駐車場の位置が分かりにくい。大型バスの乗降場所があることをアピールすれば観光客が増えるのではないか。	5月に大型バス20台以上、来館者900名以上の韓国の団体ツアーを受け入れた。専任スタッフが事前に旅行会社と入念に調整を行い、第1駐車場で降車し、第2駐車場にバスを移動し、第2駐車場で乗車してもらうという動線を作って、多くのスタッフの対応が必要であったが、スムーズに対応することができた。 今後、分かりやすい案内図への変更を検討するとともに、今回の経験を活かして、マニュアル化するなどの工夫により、来館者にストレスなく観覧していただけるように努める。

令和6年度 九州陶磁文化課協議会 主な意見と対応



意見	対応
広報(動画の活用)について 夏休みイベントのチラシを全戸配布してもらいよかった。 夏休みのイベントや館内の様子などを動画でとってウェブサイトやSNSでPRしてみてもどうか。	動画配信については、昨年度は実施できなかった。 人気がある動画配信などを研究して、専門家などの意見も聞きながら、今後、動画配信についてもチャレンジしていきたい。
収蔵庫について 収蔵庫が満杯になって寄贈を断らなければならないというのは問題。 真剣に協議すべき課題。佐賀県全体の共同収蔵庫を作るという発想もあるのではないかな。	大きな事業費を伴うハード整備のため難しい問題。県全体のハード整備の長期計画の中で検討される。(優先順位は高くない。) 有田、伊万里など陶磁器産地の基礎自治体との地域連携による収納機能の分担、外部収蔵施設の活用(アウトソーシング)、保存機能と展示機能を両立しながら新たな来館価値と話題性を創出する魅せる収蔵庫の整備など様々な可能性を研究し、国の支援メニューなどがないかなどを調査しながら、引き続き検討していく。